



Book



本の情報

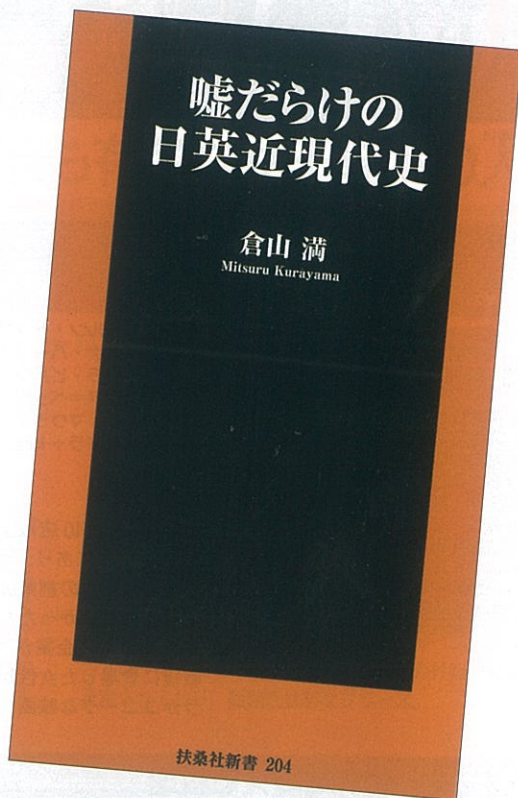
若葉も萌え、読書熱も燃える初夏の1日

1 嘘だらけの日英近現代史

倉山満 著
扶桑社新書 750円(税別)

先が見えない世界と日本の今後について考えるための新しい歴史観

本書は冒頭から刺激的なフレーズで始まる。「大日本帝国とはなんだったのか。それを考えていたある日、大東亜戦争で史上最強の帝国と刺し違えた国なのだと気づきました」という意外な視点だ。ベストセラーとなった「嘘だらけシリーズ」で日米、日中、日韓、日露の史実を全く別な見方で剛速球を投げ込んだ著者が、日英関係から大局を掘り起こす試みが新鮮。タイトルは近現代史だがウィリアム一世やクロムウェル、エリザベス女王に小ピットらオールスターを揃えて英国史をわかりやすく語っているので通史としても使える。大英帝国の強烈な植民地奪取は、凄まじい個性の英国政治家たちの自我そのものようで、読み進めていくと圧倒される。著者独自の史観によって、過去および存命の政治家、歴史研究者たちがなで斬りにされるが、逆に日本人的には不人気の桂太郎が評価されているのが面白い。また、小泉内閣の郵政解散は英国における1909年のハーバート・アスキス自由党内閣のアスキス解散の先例を踏まえているとの見方もユニークだが、根拠が小泉元首相は英国への留学経験があるから、では弱い。ここはぜひリアルな情報源を明かしてほしいが、当事者が元気なうちは書けないことが多いのだろうか。



2 チェリー・イングラム 日本の桜を救ったイギリス人

阿部菜穂子 著
岩波書店 2,300円(税別)



グローバルな視点から再発見する桜で結ばれたイギリスと日本の確

古来より日本人が最も愛してきた花である桜は、実は多くの品種があるという。明治以後の急速な近代化と画一的な染井吉野の流行で、日本独自の桜が消えていく運命にあった。だが1902年に来日したイギリス人園芸家、コリンウッド・イングラムは日本の桜の魅力に惚れ込み、多品種を収集してイギリス本国に接ぎ木によって桜の園を作ろうと決意する。そして今日、イギリスでは日本よりもはるかに多様な桜が健在である。国境を越えて桜の保護に尽力した人々の100年以上に渡る歴史を描いた秀逸なノンフィクション。

3 謎解き「ハムレット」名作のあかし

河合祥一郎 著
ちくま学芸文庫 1,100円(税別)



尼寺へ行け! は愛情の証明? 虚像を脱した真のハムレット

英文学が生み出した不滅のキャラであるハムレットには多くの謎が秘められている。なぜ父の復讐をすぐ実行しないのか、なぜオフィーリアを破滅させるのか、そもそも彼は強い男なのか、それとも柔弱なインテリなのか……。ハムレットに対する解釈そのものがロマン主義などの時代の流行とともに変容したことを導入部として、20世紀までの定説をことごとく痛快に打ち破ってみせた実に面白く読める傑作評論。徹底的に深読みができるテキストであることこそ名作のあかし。シェイクスピア没後400年に相応しい文庫化。

4 パリ・ロンドン・北欧の手づくりガーデニング

ジュウ・ドゥ・ポウム 著
主婦の友社 1,000円(税別)

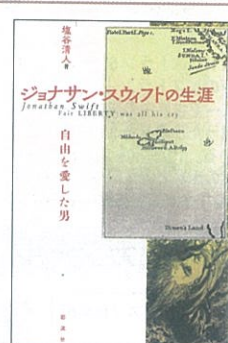


小さなお庭でも全然大丈夫 今すぐ手軽にトライできる

オシャレな雑貨のようなビジュアルブック・コレクションである小さな写真集「プチ・ポウム」シリーズの最新版。ヨーロッパのとてと素敵な庭を自分の家で実現するにはどうしたらいいか、そんな願いのヒントになるのが本書。詳細なノウハウではなくメルヘンなイメージカットをふんだんに盛り込んだおおらかな内容で、ミルク缶やホロー鍋がカワイイ植木鉢になるという感じの簡単にできることがたくさん。見ているだけでワクワクしてきて、このワクワク感が原動力になってガーデニングがまた楽しくなる。

5 ジョナサン・スウィフトの生涯 自由を愛した男

塩谷清人 著
彩流社 3,000円(税別)



墓碑銘は「自由の擁護者」 複雑キャラの文豪の生き様

一般に使用されるガリバー、ヤフー、ラビュタという単語がジョナサン・スウィフト作の「ガリヴァー旅行記」に由来することはどれほど知られているだろう。子供向けのライトだけでなく、惜しい、圧倒的存在感の風刺文学作家の生涯を人間らしい側面から描いた評伝。アイルランドに移住したイングランド人であったスウィフトを「さまざまなレベルで圧迫されるアイルランドの諸問題に直面し、最終的にイギリスの理不尽な圧政に声を上げ、アイルランドに尽くした男」と評価する。まさしく熱く粋な男の生涯だ。